

# 4 縦の連携

## (1) 学年間の連携

『青森県キャリア教育の指針<総論編>』(P 21)に「進路指導主事等を中心とした校内体制をしっかりと確立して、学年間の連携を密にしながら継続的・発展的に取り組みを進めることが必要です。」と記されているように、教員が各校の実態に合った方法を工夫し、児童生徒はどのような指導を受け、どのようなキャリア発達をしているのかを教員と児童生徒がともに理解していることが大切です。

### ①学年間連携の進め方

ア 各学年の取り組みを残す

- 教科の中でキャリア教育を意識して指導した内容と児童生徒の反応を簡単に記録するようにしましょう。
- 児童生徒の感想やワークシート、活動記録などを残すようにしましょう。
- 『あおもりっ子キャリアノート「明日へのかけ橋」』を適宜活用しましょう。  
※キャリアノートの活用については「4縦の連携(3)」(P 80)を参照。

イ 各学年の取り組みを共通理解する

- 体験活動を実施する際は、縦割り班や複数学年合同で行う工夫をしましょう。
- 体験活動をする時は、隣接学年の教員に声をかけ可能な範囲で参観するようにしましょう。(相互参観)
- 体験活動の様子を紹介するように努めましょう。(情報共有)
- 校内研修等の時間を使って、各学年・学級のキャリア教育についての報告会等の情報交換の時間を設定しましょう。(相互理解)
- 職員室に『キャリア指導記録簿綴り』などを置き、参考にできるようにしましょう。

### ②期待される効果

(教員には)

- ア 個々の教員のキャリア教育の実践が促進されます。
- イ 指導記録を活用することで、教員相互の指導の改善や継続的・発展的な取り組みにつながります。

(児童生徒には)

- ア 自己の活動や気づきを振り返ることによって、キャリア発達を自覚することができます。
- イ 自己肯定感や自分についての理解が深まり、より具体的な将来への夢をもつことができるようになります。



### ③留意点

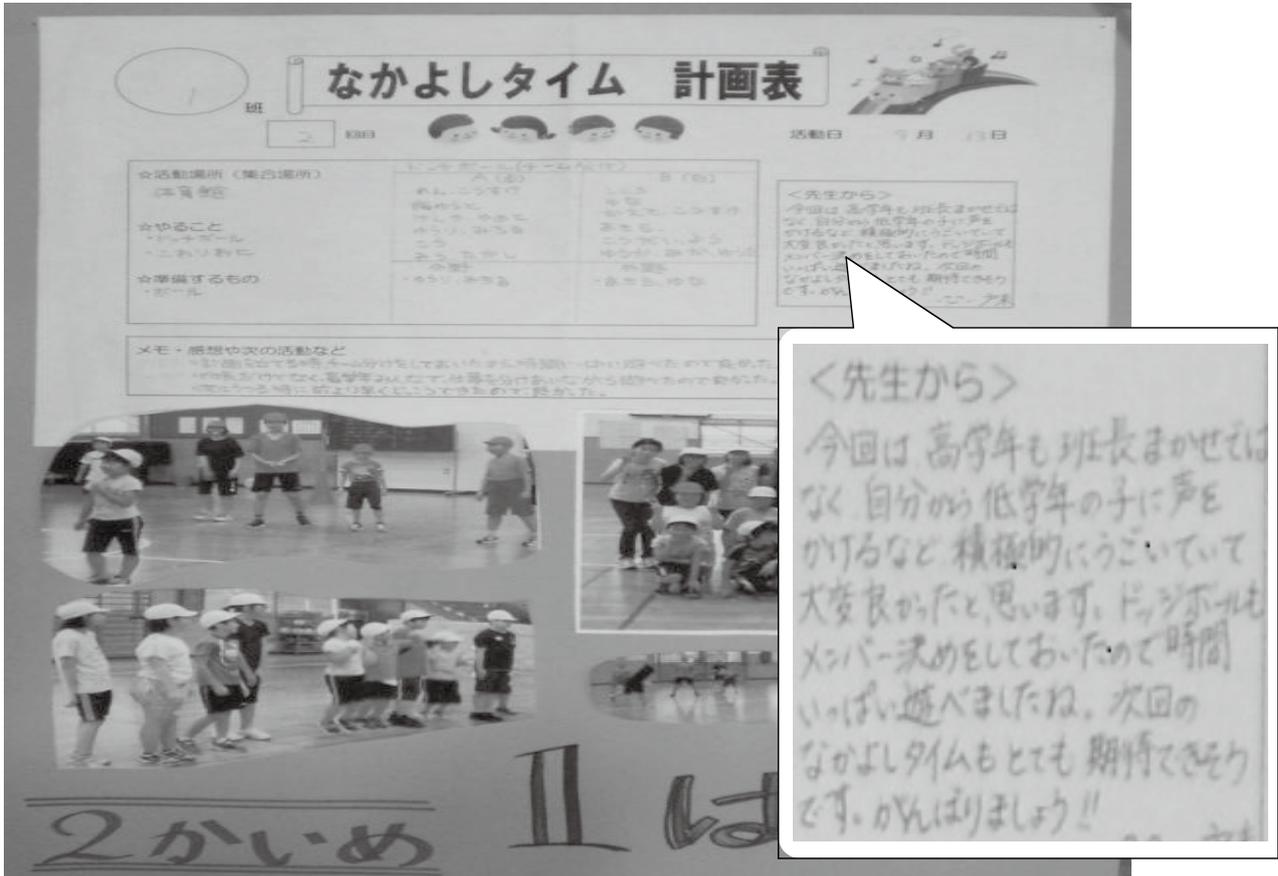
- ア 各学年の取り組みを共通理解する方法は、学校の事情に合わせ、無理なくできる方法を工夫しましょう。
- イ 取り組みを継続していくために、連携した外部人材の名前や連絡先、交渉過程なども記録として残しましょう。

# 縦割り活動で教員の共通理解を図った例

南部町立剣吉小学校

## ■ポイント

縦割りの活動でどのような力を付けるのかを教員が共通理解し同じ認識で指導することで、学年を超えた多くの教師の目で児童生徒のキャリア発達を把握することができます。



## 【活動の概要】

中休みの活動として、全学年の児童が入った班を編制します。各班では、高学年が中心となって、下学年がやりたい遊びを聞き、実行します。遊びに至るまでに高学年が中心となって計画したり、他の学年が準備に手伝ったりするなどの主体的、協調的な活動が行われます。

## ポイント

縦割り班活動は「集団に貢献しようとする力」「励まし合いながら協力して取り組もうとする力」「友達と仲良くしようとする力」などの発達を促すことができます。また、1人の教員が多くの学年の実態を把握できることで自校の成果や課題を理解することにも役立ちます。



# 活動の振り返りを記録・蓄積する工夫した例

青森県立名久井農業高等学校

## ■ポイント

体験活動等の後に児童生徒の思いや考えを記述させた資料を蓄積し、次の学年に持ち上げらせることで一人一人のキャリア発達の把握を行うことができます。

## キャリアワークシート

クラス \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

実施日	平成 年 月 日
実施内容	
やってみて気付いたこと・わかったこと・ためになったこと	
今後、同様の活動をする時に気を付けたいこと	

### ポイント

形式的に毎回記述させるのではなく生徒の気づきや理解などが深まった時など、適切なタイミングで記述させます。

## 自己評価

	今回の活動について、当てはまるところに○を付	ポイント			
		できた	ややできた	あまりできなかった	できなかった
①	相手の人の意見や考えや気持ちをしっかり受け止	4	3	2	1
②	相手が理解しやすいように工夫しながら説明や対	4	3	2	1
③	自ら仕事を見つけたり、周囲と力を合わせて行動できたか？	4	3	2	1
④	自分の長所を生かしたり、短所を改善することができたか？	4	3	2	1
⑤	自分の気持ちややる気が万全でなくてもやるべきことがしっかりできたか？	4	3	2	1
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組めたか？				
⑦	うまくできなかったことがあれば、自分から進んで情報を収集したり、誰かに質問をしたりしたか？				
⑧	何か問題が起きた時、どうすれば良いかを考えることができたか？				
⑨	スムーズに進むように事前に計画を立てたり、また、前回の反省を生かすことができたか？				
⑩	今回実施したことが自分の将来のどんなことに役立つかを考えることができたか？				
⑪	自分が将来目指す人間像を意識しながら対応できたか？	4	3	2	1
⑫	自分の将来を見据え、今後どんなことをしなければならぬか課題を見つけることができたか？	4	3	2	1

### ポイント

選択式にすることで、記述に要する時間を短縮することができます。

### ポイント

「培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心」について具体的に示されていることが具体的な把握につながります。

- ・生徒に記述させる項目については、記録を活用することを前提に各校で工夫しましょう。
- ・記述に時間がかからないように配慮しましょう。
- ・「培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心」の変容を把握できるようにしましょう。

### ポイント

生徒のキャリア発達を記録した資料は、教員が誰でも見るようにするなど、保管の工夫も大事です。



## (2) 学校種間の連携

### ①学校種間連携の考え方

一人の人間の成長を考えた場合、小学校から中学校、中学校から高等学校などの学校種間の移行には連続性があり、このような発達の段階に応じた継続的かつ体系的なキャリア教育の充実を図るためには、学校種間の連携・接続を図ることが重要です。

各学校は、異なる校種の活動について理解を深め、その理解を前提とした系統性のある指導計画を作成することが重要です。また、子ども・若者一人一人の発達の状況を的確に把握し、それに対するきめ細かな支援を行うためには、児童生徒のキャリア発達に関する情報を次の学校段階に引き継いでいくことが必要です。

### ②学校種間連携の効果

学校種間連携の効果としては、学校間で教育活動についての共通理解を図ることで、児童生徒にとっての時系列（幼・小・中・高・大など）を意識した、キャリア教育を推進できることにあります。

#### 児童生徒にとっての効果

- ・児童生徒自身が進学する学校についての情報を収集することで、不安が解消され、新しい生活環境に対して、円滑に適応できるようになります。また、自分自身の将来についての視野が広がり、学習意欲の向上や生活全般の向上にもつながります。
- ・異学年や異年齢の児童生徒が互いに交流することで、よりよい人間関係を育成することができます。

#### 学校や教職員にとっての効果

- ・学校種間での連携を図ることで、児童生徒の発達の段階を十分に考慮し、見通しをもった指導の一貫性や系統性を図ることができます。また、教育課程等の連携を図ることで、計画的・継続的な学習指導や生徒指導が展開できます。
- ・学校種間で授業交流を行うことで、各教科や領域の学習を通じて指導内容や指導方法を共有することができるようになります。また、異校種の教職員が互いのよさを取り入れることで、相互の指導の幅が広がり、教職員の意識改革にもつながります。

### ③留意点

学校種間連携を効果的に進めるためには、以下の点に留意することが大切です。

- 学校種間の活動について、互いに理解を深める。
- 発達の段階に応じた系統性のある指導計画を作成する。
- 個に応じた指導を継続的に行うために、児童生徒のキャリア発達状況について情報交換をする。
- 個々の児童生徒について学校間で情報交換する機会をもち、教育計画等について情報交換する。

# 教員相互の理解を深めるための学校種間連携を図った例

大間町立大間小学校・大間中学校

## ■ポイント

- ・授業をお互いに見合うことで、小学校と中学校との接続を円滑に行うようにしています。
- ・領域ごとに分科会に分かれて話し合うことで、多面的に相互理解を図ろうとしています。
- ・清掃等も参観することで、勤労の面からも相互に理解を深めようとしています。

## 1 ねらい

大間小と大間中の教員が互いの学校を訪問し、児童生徒の学習や生活の様子を見ることで理解を深め、今後の効果ある指導につなげる。

## 2 実施内容

[小学校公開] 平成25年11月8日(金)

- ・清掃
  - ・5校時
  - ・帰りの会
  - ・児童下校
- 大間中職員参観

### ポイント

全学級の授業と、清掃の様子や帰りの会の様子も参観することで、児童の姿を多面的にとらえることができます。この観察があるため、教科以外の児童の様子など、気になることについて話し合いができます。

### ・研究協議(60分)

- ①学習指導部会 ②生徒指導部会
  - ③特別支援部会 ④現中1部会
- (話し合う内容)

- ・授業や清掃についての質疑応答
- ・各分科会領域における現状
- ・各分科会領域における小中学校共通事項について、他

### ポイント

昨年度の6年生担当の教員と現在1年生を担当している中学校の教員で情報交換及び協議を行い、互いの指導に役立てています。

∴中学校から出された要望や小学校でおさえてほしい点の指導については、教務部が中心となって対策を練り、改善を図っていく。

### ポイント

中学校の視点から出された要望から、小学校は授業改善のヒントを得ています。  
また、児童生徒を長期的なスパンで捉えて指導を進めることができるようになります。

(実施授業)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	やまばと
1組	国語	算数	社会	国語	外国語	社会	国語
2組	算数	国語		算数			社会

[中学校公開] 平成25年11月27日(水)

- ・清掃
  - ・5校時
  - ・帰りの会
- 大間小職員参観
- ・研究協議(60分)

**ポイント**

全学級の授業と、清掃の様子や帰りの会の様子も参観します。生徒の変容や成長をいろいろな角度から見ることができます。

- ①学習指導部会 ②生徒指導部会
- ③特別支援部会 ④保健安全部会
- ⑤現中1部会

(話し合う内容)

- ・授業や清掃、その他についての質疑応答
- ・各分科会領域における現状
- ・各分科会領域における小中学校共通事項について

**ポイント**

昨年度の6年生担当の教員と現在1年生を担当している中学校の教員



中学校における今後の指導方針等についての話し合い。

各領域による分科会では、小中学校での児童生徒の様子や指導内容について情報交換がなされます。共通の課題が多いので、その課題への対応について、小中それぞれの状況でできることを確認していくことになります。

(実施授業)

	1年	2年	3年	はまなす
1組	数学	社会	英語	国語
2組	国語	国語	理科	英語
3組				数学



**ポイント**

ここでは、「つなぐ」ことが大切です。それぞれのキャリア発達の様子を互いに理解し、小学校・中学校それぞれがどのような指導を進めていけばよいのかということ、その児童生徒の人生の連続の中で考え、実践していく必要があります。

# 小学校に出向いての職場体験活動発表会

青森市立東中学校・原別小学校・野内小学校・東陽小学校

## ■ポイント

- ・異なる校種の活動について理解を深めています。
- ・異年齢の児童生徒たちと交流をもつことで、よりよい人間関係の育成につながっています。
- ・自分自身の将来についての視野に広がりをもたせることができます。

## 【概要】

- 「東雲発表会」と名付け、中学校で1年生と3年生に向けての発表を行った後、キャリア教育推進事業研究指定校の小学校（母校）に出向いて発表を行うという活動です。
- 青森東中学校の2学年生徒が4日間にわたって行った職場体験活動で学んできた内容やそれをもとに考えたことを説明します。資料は、小学生にも分かるように校内（中学生）向けとは別に作り直して発表に臨んでいます。
- 資料は、事前に小学校に配付し、小学校では、それをもとに質問等を考えさせておくようにしています。

## 1 ねらい

- (1) 自分たちが体験してきた働くことの厳しさや喜びから、自分の生き方について考えたことを発表することにより、勤労観の形成を図る。
- (2) 発表のための原稿を工夫したり、見せ方を工夫したりすることによって、効果的に伝える力を育成する。

## 2 発表方法

職場体験活動の班ごとに、指定された教室へ出かけていき、持ち時間を「発表5分+質疑応答2分」の7分間として発表する。

## 3 発表割当

	発表1 13:45~13:52	発表2 13:53~14:00	発表3 14:01~14:08	発表4 14:09~14:16	発表5 14:17~14:24	発表6 14:25~14:32
原別小1	3班	7班	8班	16班	19班	
原別小2	4班	9班	11班	15班	21班	
野内小	1班	5班	10班	12班	17班	22班
東陽小	2班	6班	13班	14班	18班	20班

## ポイント

小学生が中学生の発表を聞くことで、職場体験活動がどんなものであるかを知ることができます。また、中学生ってすごいなあという思いを抱きます。

## 4 小学生の感想から

- ・やっぱり、どこでもあいさつは大切だなと思った。お客さんを相手にする仕事の人たちは、嫌な顔を絶対にお客さんに見せないと聞いて、すごいと思いました。
- ・いろいろな発表を聞いて、仕事の楽しさや達成感という言葉が頭に残りました。命が大切だということ、人との出会いの大切さも分かりました。
- ・4日間も仕事をしてつらかったと思うけど、僕たちも中学校に行ったらやってみたいと思います。



# 中学生と高校生と一緒に参加する職業人講話

大間町立大間中学校・青森県立大間高等学校

## ■ポイント

- ・高校生と一緒に聞くことで、中学生にとって3年先の自分の姿をイメージさせるようにしています。
- ・発達の段階に応じて様々な感じ方ができるようにしています。

## 【概要】

- 大間高等学校1・2年生を対象に実施。大間町内外の各業種に従事する10名の方々に講師とってもらい、仕事のやりがいや苦勞した点、企業の求める人物像、どのようなことを心掛けていけばよいのか、などについて講話してもらうという活動です。
- 大間中学校2・3年生も参加して、高校生と一緒に講師の話を楽しみます。

## 1 ねらい

- (1) 様々な職業の実情を知り、働くことの意義や自らの職業適性を考える。
- (2) 職業人の体験談を聞き、志望する職業・職種についての理解を求める。

## 2 方法

- ・5校時、6校時、それぞれから1人の講師を選択して講話を聞く。
- ・生徒には、事前に希望調査(アンケート)を実施する。



## 3 講師(平成24年度)

5校時		6校時	
業種	企業(講師)	業種	企業
(1) 公務員	大間町消防署員	(1) 公務員	大間町役場職員
(2) 保育士	うみの子保育園総括保育士	(2) 公務員	田名部高校教員
(3) 介護・福祉	大間町社会福祉協議会	(3) 看護師	むつ総合病院看護師
(4) ラジオ放送	FMアジュール	(4) 小売	株式会社ユニバース
(5) 進学・就職	函館大学准教授	(5) 製造	ケーキ屋タックン

## 4 大間中学校の『学校だより』より

講師のみなさんの話した内容を振り返り、これからの自分の将来をしっかりと見つめ、これからの生活に役立ててもらいたと思います。

～(中略)～

生徒の皆さんには、よき「社会人」「職業人」として生きていくために、自分の持って生まれたものを深く探り、強く引き出してもらいたと思います。だれもが、皆気持ちよく、生活したいと願っています。

そのためにも、いつでも、どこでも、だれにでも

《挨拶》、《返事》、《身だしなみ》 が大切です。

## ポイント

『学校だより』で生徒に呼びかけることで、中学生としてどのような視点で「講話」の内容を振り返ればいいのかを示唆しています。そして、日常レベルへの落とし込みを行っています。

# 高校生から中学生への進路活動発表会

六ヶ所村立千歳中学校・青森県立六ヶ所高等学校

## ■ポイント

- ・中学生の前で発表することで、高校生としての自覚をもたせ、自己肯定感を高めています。
- ・高校生の発表を聞くことで、自分の近い将来についてのイメージを中学生にもたせています。
- ・高校生の発表する姿を見て、中学生が憧れを抱くようにしています。

## 【概要】

高校生が自分自身の進路活動を中学生の前で発表するという活動です。

### 1 ねらい

〔中学校〕 高校生（お兄さん、お姉さんの存在）の進路活動を聞くことによって、自らの勉強に対する取組を振り返り、将来の夢実現のために役立てる。

〔高校生〕 これまでの進路活動を振り返り、中学生の前で発表することで、先輩としての責任をもたせ、卒業後、各進路先で活躍できるようにさせる。

## ポイント

中学生と高校生のそれぞれに、キャリア発達の段階に応じて、また、役割の違いに応じて、ねらいが定められています。

### 2 方法

- ・中学校3年生の前で、高校3年生がこれまでの進路活動について発表する。
- ・発表と質疑応答を含めて1人10分程度とする。

### 3 内容

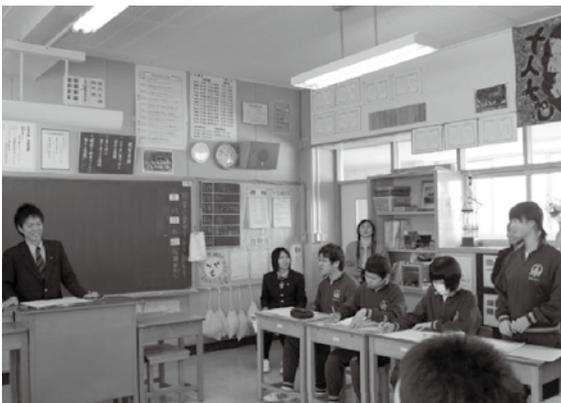
レポートをもとに志望動機や就職活動で苦労したこと、中学生へのメッセージ（高校受検や進路の受検に対しての不安の解消法など）を発表する。

発表と質疑応答が終わったら、中学校の代表生徒がお礼の言葉を述べる。

### 4 成果

高校生にとっては、今までの進路活動を振り返って自分の考えをまとめ、中学生にも分かるように伝える努力をすることで、コミュニケーション能力を身に付けることができた。

中学校の生徒にとっても高校生活やその後の進路について早期から考えるきっかけとなった。



高校生の語る進路の講話は、実感がこもっていて、中学生にとっても共感のもてる内容が多いものです。



# 金魚ねぶたづくり体験による小・高連携の例

青森市立野内小学校・青森県立青森工業高等学校

## ■ポイント

- ・高校生が小学生に教えることで自己有用感を得られるようにしています。
- ・小学生にとって高校生が憧れの存在として心に残ります。
- ・青森県の伝統文化に触れることができます。

## 1 ねらい

- (1) ものづくりを通し、工業高校との連携を図ることで、技能を習得するとともに、ものを作る楽しさを知る。
- (2) 青森の伝統であるねぶた作りの活動を通し、ふるさとを誇りに思う気持ちを培う。

## 2 対象 野内小学校3・4年生、青森工業高校工業クラブ生徒

## 3 内容（野内小学校体育館にて）

- (1) はじめの会 ・歓迎の言葉（野内小3年生）  
・校長先生のお話  
・工業高校生からのお話（活動紹介等）
- (2) 金魚ねぶた制作開始（80分間）
- (3) 後片付け
- (4) おわりの会 ・感想、質問  
・お礼の言葉（野内小4年生）  
・写真撮影



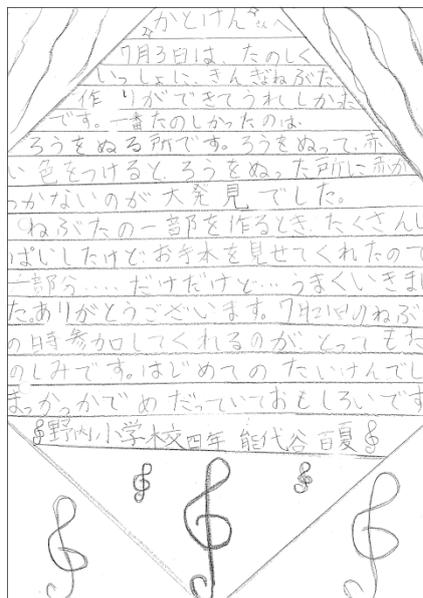
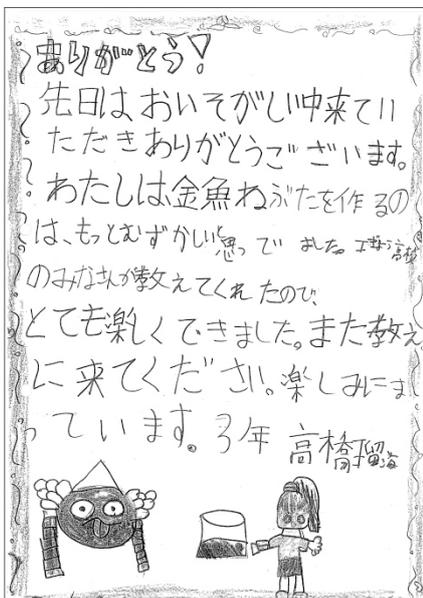
## ポイント

自分たちの持っている技術を伝えることは、お互いにとってプラスになるものです。高校生も小学生も満足のいく活動となります。

## 4 事後の活動

- (1) 交流、制作について感想や絵日記にまとめる。
- (2) 高校生とねぶたの合同運行を行う。

### （小学生の感想）



# 小学校の理科の授業での実験補助

青森市立原別小学校・青森県立青森工業高等学校

## ■ポイント

- ・高校生には、自己有用感を高める機会、「ミニインターンシップ」の機会となっています。
- ・小学生には、自分の「高校生像」を思い描くことにつながる機会となっています。

## 【概要】

小学校4年生の理科の授業において、実験の補助として高校生に入ってもらおう。



## 【授業の概要】

### 本時のねらい

乾電池扇風機を速く回す方法を、乾電池の数やつなぎ方に着目して考えることができる。

### 展開 (3 / 11時)

過程	学習活動と内容	○配慮事項 ◎高校生の動き ☆評価
導入	<p>1 扇風機をもっと速く回す方法を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モーターを強力なものにすればいい。</li> <li>・新しい乾電池にかえればいい。</li> <li>・乾電池を増やせばいい。</li> </ul> <p>乾電池2個を使って、せん風機を速く回す方法を考えよう。</p>	<p>○扇風機を速く回したいという児童のアイデアを認めた上で、乾電池の数やつなぎ方を変えることに焦点化し、学習を進める。</p> <p>○乾電池は、2個とすることを確認する。</p>
展開	<p>3 つなぎ方を考え、話し合う。</p> <p>㊦+-+-の順番につなぐ。</p> <p>㊧+++-をつなぐ。</p> <p>㊨-+-をつなぐ。</p> <p>㊩+同士と-同士をまとめてつなぐ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><b>ポイント</b> ここが、高校生の活躍する場です。丁寧に小学生に教えています。</p> </div> <p>4 実験を行う。</p>	<p>☆速く回す方法を、乾電池の数やつなぎ方に着目して考えることができたか。</p> <p>(ワークシート、発言)</p> <p>○乾電池のつなぎ方を図で表せるよう、ワークシートを準備する。</p> <p>○ワークシートをもとに、話し合いをさせる。</p> <p>◎ショート回路にならないようにさせる。</p> <p>◎つなぎ方を、話し合いにより㊦～㊩に仲間分けさせる。</p> <p>◎実験の補助をする。</p>
まとめ	<p>5 まとめを行う。</p> <p>直列つなぎ +-+-とつなぐと、速く回る。</p> <p>並列つなぎ +同士と-同士をまとめてつなぐと、あまり変わらない。</p>	

### (3) キャリアノートの活用

キャリアノートは、『青森県キャリア教育の指針（総論編）』の「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」を具現化するために作成したものです。



キャリアノートの様式は、県教育委員会のホームページに掲載しているので、ダウンロードすることで活用できます。

→キャリア教育 (<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kyariakyouiku.html>)

#### ① キャリアノートの役割

- ア 「児童生徒のキャリア発達の振り返り」や「自分の将来の生き方や夢実現に向けて意欲をもつ」などを支援します。
- イ 教師が児童生徒のキャリア学習の足跡を知り、適切な指導が行うことを支援します。

#### ② 期待される効果

- ア 児童生徒が自らのキャリア発達を振り返えることで、自己肯定感をもつことができます。
- イ 児童生徒が将来の夢の実現に向けて意欲的に学校生活を送り、人生設計することができます。
- ウ 教師にとっては、児童生徒のキャリア学習の足跡を知る資料となり、学年や校種が変わっても継続した指導に結び付けることができます。

#### ③ 留意点

- ア キャリアノートは、その継続性を考え、学年分けを次のようにしています。

〈総論編〉「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」の学年分け	キャリアノートの学年分け
高校2～3年	高校1～3年
中学校2年～高校1年	中学校1～3年
小学校5年～中学校1年	小学校4～6年
小学校3～4年	小学校1～3年
小学校1～2年	

#### ポイント

ノートのつくりは3年ごとになっていますが、ノートの文言については総論編の分け方を意識し、つながるように作成しています。

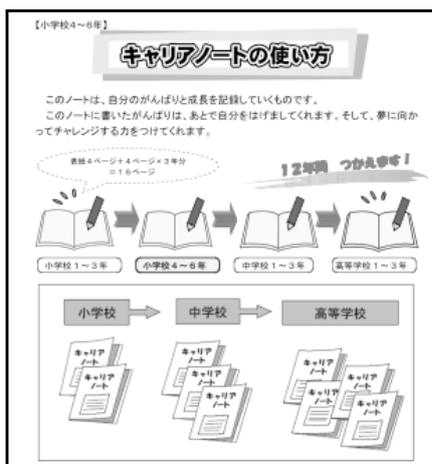
- イ 児童生徒が自分の成長を12年間を通して振り返り、その変化を実感するためには系統的な内容である方がよいと考え、基本項目を統一しています。そのため、各学校におけるノートの加除修正は最小限にしてください。
- ウ 使用時期、使用項目や使用ページは、学級の実態に合わせて活用してください。必ず1ページ目から順番に書かなければいけないというものではありません。また、1ページすべてをその時間に書くということではなく、部分的に書くこともできます。

# 自分やふるさとが好きになるキャリアノート

## ■ポイント

- ・児童生徒がやってきたこと、感じたこと、考えたことを、小・中・高等学校の12年間記録することで、自分自身の成長の足跡をたどることができます。
- ・成長の記録は児童生徒自身に自信を与え、意欲的に学校生活を送ることができるとともに、将来の夢や目標に向けてチャレンジしていく意欲をもたせてくれます。

## 1 キャリアノートの使い方と意義を、児童生徒と確認しよう



ノートの始めに、「キャリアノートの使い方」が記されています。

何のためにキャリアノートに書いていくのか、その意義を児童生徒に丁寧に説明することで、児童生徒に継続していこうという気持ちをもたせましょう。

次に、「明日へはばたく力（培いたい力）」が記されています。児童生徒の1年間のめあてになります。



(児童生徒用)



(教師用引書)

## 2 キャリアノートの活用計画を立てよう

育目標が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」	自己を見つめる力	つなげる力	動く/生かす力	振り出す力	
国が示す基礎的・汎用的能力	自己理解・自己管理能力	人間関係・社会形成能力 / キャリアプランニング能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	
各教科等	キャリアノートの主な内容	<P1> 「命と将来の自分を見つめよう」	<P2> 「たたく人の人となりがりを発見しよう」	<P3> 「自分の行動を将来に「自分の将来を創り出そう」	<P4> 「自分の将来を創り出そう」
生活	1 自分と人とのかかわり		○	○	
	2 自分と自然とのかかわり		○		
	3 自分自身	○		○	
道徳	1 主として自分自身に関すること	○		○	
	2 主として他の人とのかかわりに関すること		○	○	
	3 主として崇高なもののかかわりに関すること		○	○	
	4 主として集団や社会とのかかわりに関すること		○	○	
特別活動	1 学級や学級の生活づくり		○	○	
	2 児童会活動	○	○	○	
	3 学校行事		○	○	
総合的な学習の時間	国際理解、情報、環境、福祉健康などの横断的・総合的な課題		○	○	
	授業の興味・関心に基づく課題	○		○	
	地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題		○	○	

「キャリアノートと教育課程との関連」の例

(「教師用引書」巻末)

「キャリアノートと教育課程の関連(例)」には、キャリアノートと関連が深い部分を○で示しています。

各教科等と培いたい力の関連を確認し、どの活動でキャリアノートのどの部分を活用するのか計画を立てましょう。

### 3 キャリアノートに記録していこう

■各学年1 ページ目 「自分を見つめる力」…4月～5月上旬に書くとよいでしょう。

自分のよさや1年間の目標が確認できる内容になっています。

■各学年2 ページ目 「つながる力」…書く時期は発達の段階に応じています。

- ・小学校1、2年生（6～7月頃）
- ・小学校3～6年生（9月頃）
- ・中学校1年生～高校3年生（特になし）

このページは、たくさんの人とのつながりを記録するページです。家族のお手伝いから学級の係や学校の仕事、そして地域社会と、成長と共につながりが広がっていきます。また、その活動や時期も様々です。児童生徒や活動によって適宜活用してほしいページです。

■各学年3 ページ目 「動く／生かす力」…2学期中旬～後半に書くとよいでしょう。

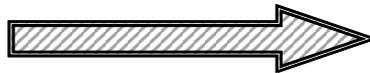
自分の課題を見つめ、課題を解決していこうとする気持ちを育てます。

■各学年4 ページ目 「創り出す力」…学年末に書くとよいでしょう。

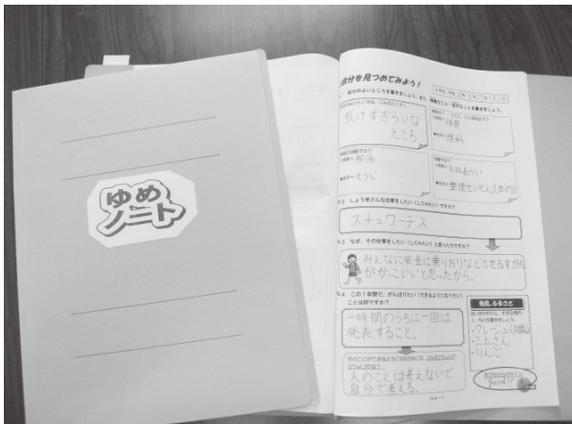
春に書いた「がんばりたいこと」（1 ページ目）の確認ができます。そして、1年間を振り返り、次の目標に向かうページです。

最後の「メッセージ」は児童生徒の励みになりますから、しっかり書いてほしい部分です。

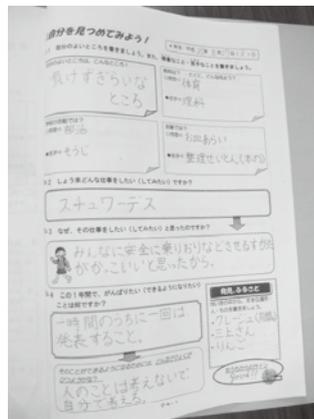
小学校から中・高等学校へ



教師用手引書がついています！



ファイルにとじて活用している例



記録例



